

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 23 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870900150		
法人名	医療法人 康仁会		
事業所名	グループホーム さわらび		
所在地	四国中央市三島金子2-2079-8 (電話) 0896-24-5830		
管理者	尾崎慎也		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 5 月 8 日	評価確定日	平成 20 年 7 月 25 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 4 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 10 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 人, 常勤換算 7 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	1,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 月 300 円
	または1日当たり	1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 4 月 15 日事業所記入)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護 1	1 名	要介護 2	3 名
要介護 3	5 名	要介護 4	名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 87 歳	最低 73 歳	最高 95 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同法人の病院と種々の福祉施設に隣接した、二階建て1ユニットのホームである。国道そばにあり交通の便利はよい。医療面では、隣接する同法人の病院が24時間対応可能となっており、安心できる。開設して約8年半が経過し、職員の異動も比較的少なく、利用者及び職員は落ち着いた生活を送っている。玄関は施錠し、センサーを設置しており、チャイムが作動すればその都度職員が対応している。生活のリズムを尊重し、外出支援にはもう少し力を入れたいと考えている。昼・夕の食事(副食)は病院で調理されたものが届き、ホームで個々に配膳している。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
前回の評価後、地域との関わり、家族会の開催、職員教育、外出支援、運営推進委員会の運営等について具体的に検討し、改善に向けて積極的に取り組んでいる。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
管理者及び職員は評価の意義を理解しており、個々に自己評価をすることで日々の支援の振り返りができ、具体的な改善に繋げることができると考えている。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
ホームの概要、現状報告、外部評価への取り組み、地域密着サービスについて、家族との関わりやホームの見学について等を議題として開催し、徐々にホームへの理解が深まっている。会議を利用して利用者の生活がよりスムーズになるための提案をし、行事やボランティア等を通して地域とのつながりを深めている。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
家族の意見は来訪時、電話連絡時や家族会、運営推進委員会等で把握し、ホームの運営に反映している。苦情相談窓口は内部・外部共に文書に明示し、家族に説明し、ホーム内にも掲示している。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
地域の行事にはできるだけ参加しており、また同法人の利用者との交流機会ももっている。日々の散歩やお出かけは天気や体調に注意しながら実施している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム さわらび

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名 尾崎 慎也

評価完了日 平成 20 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) ①安心・安全で健康的な生活をお手伝いします。 ②家庭的な明るい雰囲気の中での生活えお手伝いします。 ③暖かみのある希望に沿った生活えお手伝いします。 パンフレット等で、地域密着を記載している。 (外部評価) 平成18年度に職員全員で検討し、地域とのつながりを持ちながらその人らしく暮らしていく理念として見直している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 玄関・介護室に理念を表示し常に、理念を実践出来る様に、努力をしている。 (外部評価) 理念は玄関や食堂、居間に掲示して常に目に触れるようにしており、出勤時は更衣しながら読んでいる。また、会議でテーマに取り上げたり、日々のケアの際にも各自で振り返るなどして常に意識している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) ホームだよりを関連施設・運営推進会議に提示し地域の方々にも、配布し入居者の家族にも毎月送付している。その他、関連施設の行事に参加したり、地域の方がホームにて、レクリエーション等行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ホーム便りを地域の方に配布している。地域の方がホームに來られ、レクレーション(手品)を行ってくれたり、サロンの世話人さんへ、ホーム見学をお願いをお願いしている。	※	誰でも気軽に立ち寄れるホームを目指したい。地域の方に入居者の顔を覚えて頂き、親近感が持つて頂ける様努めたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) サロンのお世話さんにホームを見学等して頂き、グループホーム・入居者の事を理解してもらおう。関連施設の行事には、参加している。 (外部評価) 地域の行事や活動にはできるだけ参加・協力している。サロン世話人にはホームの見学もしていただき、理解してもらっている。自治会や老人会にはまだ入っていないが、散歩や買い物等の機会をより工夫したいと努力している。		入居者の事を理解して頂き、老人会等に参加出来る様に努めたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 不十分であるが、運営推進会議等で、自分達が出来ることを積極的に取り組んでいきたい。	※	運営推進会議時に地域の方に自分達に出来る事を意見をもらい、職員で話し合い検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回の自己評価・外部評価での意見を活かし、職員一人一人日々向上のあるホームを目指している。 (外部評価) 管理者及び職員は評価の意義を理解しており、個々に自己評価をして改善に取り組む姿勢がある。今後も具体的な改善に向けて取り組む予定である。	※	地域密着を中心に自分達に出来る事を見つけたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域の方の意見や提案で、サービス向上・地域密着を行うことができている。今後も参加者の意見・提案を積極的に取り入れたい。 (外部評価) 会議での意見や提案を検討し、積極的に取り入れている。また、よりホームを理解してもらうために情報提供にも努めている。	※	地域の方にサービス向上の議題で、運営推進会議で話し合いサービス向上を努めたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) ふれあい相談員2名が月に1回訪問している。助言等頂き改善を行っている。 (外部評価) 生活保護の方の手続きや相談について、担当者と連携している。月一回ふれあい相談員の訪問を受けているまた、運営推進会議のメンバーに地域包括支援センター職員がおり、定期的に参加してもらっている。その他必要に応じて担当者に相談、確認している。	※	他にも、交流等も行っていきたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会に参加し、参加した職員が他の職員に勉強会を開き、説明等行っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 十分とは言えない。 事前調査時に本にん・家族の様子には十分観察行う	※	勉強会等あれば、積極的に参加し事業所内では、絶対にならない様、職員一人一人意識したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約時には、重要事項説明書、運営規定をホーム1部保管・家族に一部お渡ししている。本人・家族に説明し理解・納得を得た後に契約書にサイン・印鑑を頂いている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方、入居者に苦情を気軽に言える様に働きかけている。外部への苦情報告機関を玄関に張り出している。	※	家族会時に家族からの意見も、積極的に取り入れていきたい。 苦情受け付けノートを設けており、苦情受け付けスタッフ会時に話し合いを行う。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月、家族に「個人新聞」を作成。新聞には、生活の様子・健康状態・個々に合った報告をしている。その他本人の写真も記載している。ホームの行事などは、ホーム便りを同封している。 <hr/> (外部評価) 毎月、家族等に本人の写真に掲載した「個人新聞」、生活の様子や健康状態の報告、ホームの行事等全体を掲載した「ホーム便り」、金銭管理の状況等を送付している。また、面会時や電話連絡時にも報告し、情報交換している。	※	定期的に行っている行事に家族も参加して頂ける様イベントの企画・連絡を行いたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に苦情相談窓口を提示し他にも、外部への苦情報告機関も提示している。 入居時に家人に苦情窓口・外部の苦情窓口機関の連絡先を記載した、パンフレットを渡している。 <hr/> (外部評価) 玄関に相談窓口を掲示し、意見・不満・苦情を受ける体制をとっている。また、相談苦情の外部機関も明記しており、入居時に家族等に説明するとともに、記載した用紙を渡している。家族会開催時に、家族だけで集まる時間を設け、より意見を出してもらえようようにして運営に反映したいと考えている。	※	家族会時に家族だけ集まる時間を設け、苦情などの意見を出して頂き、問題に取り組める様努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、スタッフ会を開催しており、意見や提案など話し合いサービスの向上に努めている。		管理者は、日常の勤務時でも意見や提案を聞いている。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 入居者が体調不要時、病院受診時には職員の付き添いが必要なため、ホームが手薄になる時は病院と併設なので、他の部署の職員に見守りなどお願いしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員移動時には、入居者に説明し納得してもらっている。 (外部評価) 職員の異動や離職等は少ないが、ある場合は利用者に影響がないよう伝え方等には注意を払っている。		入居者の環境の変化を防ぐ為、職員の移動を最小限にしている。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 積極的に勉強会に参加し、職員のスキルアップに努めたいが研修参加は少ない。 (外部評価) 採用時は、オリエンテーションを含め一週間位かけて丁寧に教育を行い、初めての夜勤は管理者と一緒にいき、評価している。ホーム内の勉強会や研修会は少なく、また外部研修への参加も少ない。	※	職員の経験などに応じて、受講計画を作成し積極的に参加していきたい。
				※	会議等、職員の集まる機会を利用して、職員主体で勉強会を計画していくことを期待する。また、外部研修への参加は経験や実績に応じて計画し、報告の方法等も検討し、年間計画等を職員間で共有することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 同法人にグループホームが当事業所の他にあと1ヶ所あり、意見交換や運営推進会議の参加など行い、情報交換を密にしている。 行事での交流もある。	※	法人内のグループホームが行う勉強会に参加したり、当ホームが勉強会を開催できるよう努めたい。
			(外部評価) 同法人のホームとは行事の参加や情報交換はしているが、他のホームとの交流はできていない。	※	地域のホームとの勉強会や発表会等を通じて交流を持ち、互いの活動を知ることによってサービスの質の向上に取り組むことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 毎月職員会議を行い、職員同士で働きやすい環境について話し合う機会をもっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 毎月の職員会で話した内容を話し合い、良い意見を取りくんでいる。 話しやすい雰囲気の中で話し合が出来き、発言しやすい様努めている。	※	職員一人一人勉強会に積極的に参加し、質の向上していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 日頃から各々の表情を見て、変化があれば本人の言いやすい雰囲気を作り、納得のいくまで聴き早期に解決する。	※	難聴・視力低下の方など個々に合った対応を行いたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会時や月1回の手紙、電話での対応をして、気軽に相談して頂けるよう配慮している。		運営推進会議を2ヶ月毎に開き、他に家族会などにも参加して頂ける機会を設けている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 重度化に合わせて、他の施設への申し込みなどが出来るように支援している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 事前調査を行っている。家族にも協力を頂き外出・外泊・面会などで、除々にグループホームでの生活に馴染んで頂いている。 (外部評価) 事前に訪問や面談を行い、家族の協力も得ながら利用を開始している。同法人関連事業所等から利用につながる方が多く、関わりを持つ期間があるため、馴染みの関係が築きやすい。利用開始時は歓迎会を計画し、他の利用者との関係づくりや家族の協力を大切にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として、ことわざ・家事一般などいろいろと知識を授かり、楽しく過ごして頂ける様にしている。 (外部評価) 人生の先輩として生活の知恵を授かる場面を大切にしている。一緒に何かをすることや、一緒にいることで楽しみを見つけたいと努めている。		業務に追われず、入居者との時間を多く過ごしたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 昔からの馴染みに物や、趣味など家族より教えて頂き、楽しく過ごして頂いている。	※	家族会など、グループホームのイベント事に積極的に参加の声掛けを行える様に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 訴えがある時、手紙・電話・FAXで連絡している。	※	家族とマメに連絡取り、できるだけ面会をお願いしたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 電話の取次ぎや、面会時の対応を考慮し気軽に来所して頂ける環境作りに努める。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 入居者が家族同様に、楽しく過ごして頂ける様に、個々の様子観察を行い、良い雰囲気作りをして笑顔が多く見られる様にする。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 全員には、難しいがお会い出来る機会などあれば、会話などしている。	※	スタッフ会にて、検討したい さわらび新聞の送付や、年賀状・暑中見舞いなど行っていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプラン作成時、入居者本人・家族の意見を必ず聞き、意見に合ったプランを作成し、職員がプランに沿ったケアを行いプラン達成できる様に努めている。 (外部評価) 日々の生活の中で本人の言葉や行動に丁寧にに関わり、汲み取り、把握に努めている。また家族の意見も聞きながら、本人本位に検討している。		ケアプランに沿ったサービスが出来たか、「ケアチェック表」でチェックし次ぎのサービスに繋げている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に本人・家族などから、本人の趣味や職歴などグループホームで「自分の役割」「活気のある生活」を持つよう具体的な情報を質問させて頂いている。		本人が出来る事を大切にし、ケアプランで表示している。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) カンファレンス時に職員で、入居者の状態話し合っている。 著しく変化があれば、その都度ケアプランの変更を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) プラン作成時は、必ず本人・家族に意向や訴えを聞き必要であれば、母体病院のリハビリ職員にリハビリ内容を聞きプランを作成、カンファレンス時は全職員が集まり検討・変更を行っている。 (外部評価) 本人や家族の意向を聞き、関係者と話し合い、全職員参加のカンファレンスで意見を出し合って作成している。	※	カンファレンス時には、グループホーム職員だけでなくリハビリ職員にも参加を検討したい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) ケアプラン3ヶ月に1回の見直しを行い、変化時には随時見直ししている。ケアプランのケアチェック表を作成しており毎日、評価している。全員のケアプランを把握でき、プランの見直しに活かしている。 (外部評価) 毎日、ケアプランのチェック表にて評価している。また、3か月毎の見直しを行い、状態の変化時は随時見直ししている。本人や家族・関係機関等の意見も聞いているが、合同の見直し会議は開催していない。		3ヶ月より前にケアプラン変更・見直しを行うと、ADL表のチェックの色を変えたりと工夫している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日、個別にバイタルチェック・水分量・生活の様子など記録している。 その他、職員間で「連絡ノート」を作成している。 申し送りも行っており情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 母体病院へのリハビリや受診の介助を行っている。 関連施設のイベント時には、入居者の希望・体調に考慮し参加支援している。 (外部評価) 家族の協力を得ながら利用者の要望を引き出し、できるだけこれまでの生活の質を保ち、広げる努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 毎月のふれあい相談員の訪問あり。 防火訓練は、消防署からの参加あり。 運営推進会議時は、地域の民生委員の参加あり。	※	地域資源の参加を参加・活用に努めたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 同法人内の居宅支援等には連携取れている。	※	積極的に他の機関と連携を取れる様に努めたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議時に、市の地域包括支援の職員が参加しており 連携は取れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 元々母体の病院がかかり付けの入居者が多い、他の入居者も入居の際、見極めで受診し、それを気に変更している。 他の病院に受診時には、家族の協力をお願いしている。 (外部評価) ほとんどの方が運営法人の病院がかかりつけ医となっており、連携が取れている。また、かかりつけ医以外の受診は家族に協力を依頼している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 母体病院に月に1度、心療内科の受診あり。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 母体病院で、24時間体制で医師・看護師の連携が取れている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 母体病院にて医師・看護師と連携を取り、入院者の状態を把握している。他の病院に入院している方は、家族に電話で連絡を取り把握している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) グループホームでの医療管理が難しい為、本人・家族に相談し意向など聞き、母体病院の医療スタッフと相談し方針を決めている。 (外部評価) 早い時期から話し合いながら、医療の管理が必要になった場合に本人や家族、医療関係者等と相談し、病院等が関わるようになってきている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人・家族の意向を尊重し母体病院の医療スタッフと連携を密に取り、本人らしく生活が出来る様に支援している。	※	これまで以上に母体病院医療スタッフを中心に連携を密に取っていききたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人の不安要素を取り除き、本人の希望があれば電話等で家族と連絡を取るなどして、グループホームに馴染んで頂ける様に、努力している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報は、鍵付きロッカーで保存し、ホーム便り・カルテ等、記名必要な時は、イニシャルで記入している。新しい職員が勤務になる時は、個人情報契約書を交わしている。入居者の声掛けも入居者の誇りを、傷つけない様に配慮している。 (外部評価) 記録類は鍵付きの保管庫を使用し、ホーム便り等にはイニシャルで名前を記入している。また、採用時や実習の際は個人情報契約書を交わしている。言葉かけや対応は誇りを傷つけないよう配慮している。		ボランティア・実習の学生が来た時も、個人情報契約書を交わしている。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人のADL等に合わせ理解出来る様、声掛けを工夫している。 自己決定ができ、自分の思いを表に出せる様心掛け、活気のある日常生活を援助している		入居者が恥心のない声掛けを出来る様心掛けている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活リズム、体調等を考えながら入居者の希望うに添った支援を心掛けるようにしている。 (外部評価) 単調になりやすい中で、個々の生活リズムを考えて日常生活パターンや希望に沿った外出支援をより多く計画したいと考えている。また、工夫はしているが職員の一人での夜勤帯の時間が長い為、この時間帯の支援に限界がある。	※	外出の希望にも多く答えられる様に努めていきたい。 本人の希望と生活のリズムとのバランスをとりながら、生活の質をより上げる支援をすることを期待する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 定期的に散髪屋の訪問あり。 家族との外泊・外出時に行き慣れたパーマ屋に行ったりされている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事制限のある腎臓食・糖尿食の入居者に配慮し、昼食・夕食の副食のみ母体病院からの配食。入居者は配膳や片付け、台拭きなど行っている。 (外部評価) 昼・夕食は母体病院から副食が配食されており、ホームでは主食を炊き、利用者と共に配膳や片付けをしている。食材はおやつ以外は母体病院から届いている。職員は利用者と一緒に食べながら見守っている。時には野外で弁当を食べたり、庭のベンチでティータイムをするなどしている。	※	食器・盛り付け等にも気を配る様にしている。 イベント時には、野外で弁当を食べたり、庭のベンチでティータイムを行ったりしている 食材の買い物も、積極的に行いたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 喫煙・飲酒をされる方はいない。おやつなどは、入居者の好みそうな物を、積極的に入居者と作りし工夫している。	※	グループホーム内だけではなく、外食等も検討したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行ったり、服薬による排泄コントロールを行っている。 排泄失敗時には、素早い対応をし、不快感を与えないように心掛けている。		トイレ誘導時、拒否がある時は、タイミング計り再度、声掛けを行っている。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 基本的に入浴は、自由。 高齢化が進み、1人での入浴が難しく、入浴時間は決まってしまう。 (外部評価) 17時から翌日の8時30分まで夜勤者が一人のため、その間に対応できない。職員の都合もあり、ほとんどの方は午前中に入浴している。一人での入浴が困難になってきている利用者が増えているが、入浴が職員と利用者の信頼関係を深める場ともなっている。	※	入浴時間は、入居者と職員のコミュニケーションの場や信頼関係を深める場所になっている。 入浴支援の比重が増してきており、信頼関係をより深めるためにも時間帯も含めて再検討することを期待する。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の生活空間がもて、余暇を自由に楽しめる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 本人・家族に趣味や職歴を開き、本人が得意そうな物を生活の中で、活用出来そうな物をカンファレンス時に話し合い、生活リハビリとして、行なってもらっている。 (外部評価) 個々の生活歴や力を活かすことができるよう、日々の生活の中で掃除・配膳・片付け・洗濯物たたみ・菜園の収穫・手芸等の楽しみごとや役割を見つけ、カンファレンスで話し合っている。	※	入居者の高齢が進み、「自分の役割・出来る事」の実行が億劫になっている。新たに実行できる事の発見や、声掛けの工夫を行いたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 母体病院の売店に付き添い買い物の援助等行っている。	※	近隣のスーパー等での買い物も検討したい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 個人の希望も受け入れ、グループホーム全体での外出も計画している。 (外部評価) 月一回程度の外出を計画しており、また散歩は天気や利用者の体調等をみながら実施しているが、全体的に回数は少なく、特に寒いときは出かけるにくい。	※	入居者が外出希望時に、散歩出来る様援助に努めたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族の協力いより、お墓参りや外食に行き慣れた美容院などに行っている。 グループホーム全体でも、出来るだけ外出を援助している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が希望されると、電話をお貸ししたり家族から手紙が届いた時、本人では書く事が困難な場合は、代筆をしてやり取り出来る様にしている。	※	家族から、積極的に連絡・面会が行える様声掛け等、支援に努めたい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 玄関先に、花等を飾り明るい雰囲気にして気軽に訪問出来る様に工夫している。 リビングにコタツを用意したり、フローアに応接セットを設置してくつろげる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は、勉強不足だが、身体抑制をしないケアを行っている。		定期的に職員会議で、身体抑制話し合いを行なっている。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居者の安全の為、鍵を掛けている。 入所者の外出の希望時は、職員と一緒に散歩や日光浴を行っている。	※	入居者が落ち着き次第、玄関開放を検討したい。 出入り口には、センサープザー活用し安全を確認したい。
			(外部評価) 玄関の入り口は施錠し、網戸も閉めており、玄関の出入り口にはセンサーを設置している。	※	利用者の安全確保の方法として、施錠以外の方法を早急に検討することを期待する。また、センサーの活用についても検討を望む。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は、入居者のプライバシーを考慮し援助している。 夜間は、2時間事に巡回を行い、それ以外にも物音等があれば、様子を見に行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 共同の洗面所の下に石鹸等必要な物品をカーテンで、目隠しして、保管して、誤飲食の危険を防いでいる。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 各マニュアルが整備されている。緊急時には、母体病院の医師・看護師にいつでも対応してもらえる。 事故が発生した場合は、報告書を作成し、今後の対応に役立てている。		月1回母体病院にて、各部署の代表が集まり事故報告を行っている。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 不定期だが、訓練等行っている。	※	母体病院に相談をし、定期的に訓練を行える様に努めたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年1回消防署の指示のもと、避難訓練計画を作成し、火災の避難訓練を実地している。 月1回職員会議にて消火器の場所の確認、避難経路の確認している。 (外部評価) 年一回消防署の指導のもと、火災時の避難訓練を実施している。月一回職員会議で消火器の設置場所の確認、避難経路の確認等をしている。今年の避難訓練は夜間を想定して実施予定である。		火災・地震のマニュアルを作成している。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に事前に説明を必ず行い体調不良時、危険な場合等その都度、家族に連絡して対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 異常があった場合は、速やかに母体病院へ連絡し医師の指示を仰いで、家族にも速やかに連絡して対応している。		夜間、グループホーム職員が1人の為、入居者体調不良時は、母体病院の看護師が応援に来てくれる。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服中の身体の状態や変化を、観察記録し変化を見逃さないようにしている。 特変があれば、母体病院の医師・看護師に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便の回数、状態の観察を行い食事の工夫や調整剤で調節したり、腸内運動がスムーズに行えるよう支援している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、職員の声掛け・見守り・一部介助のもと、口腔ケアを行っている。就寝前の口腔ケア時は、義歯洗浄剤等で清潔を保っている。	※	定期的に歯科の口腔検診・義歯の調節を検討したい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 母体病院の管理栄養士が栄養バランスやカロリーを計算し、糖尿病の入居者に配慮している。食事量は、主食・副食に分けて記録している。その他、水分量も記録している。 (外部評価) 母体病院の栄養士が栄養バランスやカロリーに配慮した献立を立てている。腎臓病食・糖尿病食・刻み食等にも対応している。食事の摂取量や水分量はおおよそ把握し、一人ひとりに合った支援をしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザの予防接種は毎年、本人・家族の承諾をもらい行っている。 その他、感染症に対しては、各感染症マニュアルに		感染症に対しては、各感染症マニュアルに添って対応している。 母体の病院の医師・看護師の連携も取れている。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食器や調理道具は、定期的に除菌行っている。 その他、流水での手洗いは、必ず行っている。 食材は、母体病院の厨房から、頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関に花を飾り、地域周辺の方にも馴染みを持ってもらえるようにしている。 ガーデンベンチを設置し日光浴やティータイムが出来る様になっている。		手作りの看板プレートを作成し馴染みやすい雰囲気になっている。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ローカには、季節感が溢れる掲示物を作成している。 食堂にも、季節の花や飾りを飾っている。 (外部評価) 食堂とリビングに畳コーナーがあるが、くつろぐ場所はやや狭い。食堂や廊下には季節の花等を飾り、季節感を出している。目隠しがなく廊下からトイレの男性用尿器が見えている。不快な臭気は無く、台所は奥まっているがよく整理されている。	※	くつろげる場所を確保するために食堂のテーブル等の配置を再検討し、また、トイレの男性用尿器の目隠しについても検討することを期待する。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂には、畳のスペースがあり、個々にくつろげる空間が確保されている。 ローカや玄関に椅子を設置・図書スペースも用意している。 ロビーには、テレビと応接セットあり。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と相談等行い、入居者が使い慣れたなじみの物を持って頂き、設置している。 (外部評価) 押入れが広く、片付いている。家族等の協力を得ながら、馴染みのタンス・テレビ・カレンダー等を持ち込んでいる。部屋のドアを開けたらすぐ見えるところに、夜間使用するポータブルトイレをそのまま設置している居室が約半数ある。	※	家族には、馴染みのある物の必要性等説明を行っている。 その他、入居者・職員が作成した季節感のあるカレンダーも各部屋に掲示している。 夜間使用するポータブルトイレは、夜間だけ設置する、設置場所を変更する、カバーを掛ける等、個々の状況を見ながら検討することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) その日に応じた、温度調節や換気を入居者に声掛け・確認を行い、行っている。 冬季は、加湿器を利用し加湿調節を行っている。	※	特に冬季はインフルエンザなどの感染症にならない様、温度・湿度管理をしっかり行いたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 高齢に伴い歩行不安定な方が多く、転倒のリスクが高い為、障害物を出来るだけ置かない様に注意している。 ローカには、休憩できる様に邪魔にならない所に、椅子を置いたり、安全にエレベーターを利用出来る様、援助している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 安全・安心に生活出来る様に、不安の要因となる物を取り除き、入居者の目線で生活しやすい環境作りを行っている。		個々に、生活する中で自分の役割を持てる様に支援している。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花が好きな方や、農作業が好きな方の為に、外周りのスペースを確保している。 日光浴や、カフェのが出来るスペースも確保している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	ケアプラン作成時に、本人の思いや願い暮らし方の意向を聞いている。カンファレンスは全職員で、話し合い同じサービスが出来ている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	昼食時、入居者と一緒に食事し会話など楽しんでいる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個人のプライバシーを大切に、本人の意思を出来るだけ尊重している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	難聴の方が多く声掛けにも工夫している。 入居者の趣味など取り入れ、活気のある生活を送っている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外出希望があると、家族に協力頂いたり、週末に外出・外泊をされ希望の場所に行かれています方もいる。 希望があれば、散歩などの援助は、行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	敷地内に母体の病院がある為、日中・夜間問わず受診出来る。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人の外出・外泊訴えがあれば、家族に連絡を取り出来るだけ、本人の要望に答えている。 体調不良の訴え時には、母体の病院に24時間受診可能である。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ケアプラン作成時、必ず家族の希望や要望を聞き、困っている事や不安に思っている事が解決出来る様ケアプランに取り入れている。 家族会を定期的に行っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	ふれあい相談員が月/1回面会あり グループホーム便りを近隣に配布している。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を通して、地域の方が手品ボランティアをして頂き地域の理解が得る事ができた。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	管理者・職員間に壁がなく、職員が個々に仕事に関する話が出来き、スタッフ会以外にも、話し合いが出来き良い雰囲気である。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	高齢の方が多く、日中食堂にてテレビ観賞の時間が多い 職員の声掛け等工夫し、活気のある生活を目指したい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族会時、家族に苦情等をお聞きする事は無い 苦情ノートや、苦情連絡先を入所時にお渡ししている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

同敷地内に、母体の病院があり365日24時間、緊急対応できる。

母体病院には、内科・整形・皮膚科・循環器科・婦人科・心療内科があり特変時にも、スムーズに対応できる。 その他近くの歯医者とも「協力歯科医院契約」を交わしており、往診も行っている。

母体病院にて、週3回理学療法士によるリハビリも行っている。

市内で1番最初に出来たグループホームなので、経験が多くあり

ケアプランは本人・家族の意見・要望を聞き、本人がいきいき生活出来る様、職員が一丸となりったサービスを提供している。